



2026年12月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年4月28日

上場会社名 フューチャー株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4722 URL <https://www.future.co.jp>
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 谷口 友彦
 問合せ先責任者(役職名) 執行役員 (氏名) 松下 恭和 TEL 03-5740-5724
 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 有 (機関投資家・アナリスト向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2026年12月期第1四半期の連結業績(2026年1月1日~2026年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA ※		営業利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年12月期第1四半期	18,262	5.4	4,255	1.1	3,433	3.0	2,357	18.0
2025年12月期第1四半期	17,320	15.3	4,209	12.8	3,335	△2.4	1,997	△8.8

(注) 包括利益 2026年12月期第1四半期 2,642百万円(35.7%) 2025年12月期第1四半期 1,948百万円(15.2%)

	1株当たり 四半期純利益
	円 銭
2026年12月期第1四半期	26.59
2025年12月期第1四半期	22.54

※EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却額

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2026年12月期第1四半期	94,019	63,358	67.4	714.50
2025年12月期	97,491	62,755	64.4	707.69

(参考) 自己資本 2026年12月期第1四半期 63,358百万円 2025年12月期 62,755百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年12月期	—	23.00	—	23.00	46.00
2026年12月期	—	—	—	—	—
2026年12月期(予想)	—	24.00	—	24.00	48.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2026年12月期の連結業績予想(2026年1月1日~2026年12月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		EBITDA		営業利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	38,100	6.9	9,150	4.4	7,300	2.7	4,900	7.2	55.26
通期	80,600	6.1	21,200	8.2	17,500	8.2	11,800	0.7	133.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年12月期1Q	95,328,000株	2025年12月期	95,328,000株
② 期末自己株式数	2026年12月期1Q	6,652,039株	2025年12月期	6,652,039株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年12月期1Q	88,675,961株	2025年12月期1Q	88,627,584株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー : 無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書	6
(第1四半期連結累計期間)	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における経済環境を見ますと、イラン情勢をはじめとする中東地域の地政学リスクの高まりを背景とした原油・エネルギー価格の高騰、国内における継続的な物価上昇、長期金利の上昇、深刻な人手不足など、依然として先行き不透明な状況が続いております。また、米アンソロピック社が公表した次世代AIモデルが、AIによる自律的なソフトウェア開発能力を実証したことを受けて、SaaS不要論が市場を席卷し、関連する業種の株価に大きな影響を及ぼしました。

こうした不確実性の高まる経済環境にあっても、企業によるAIを活用した抜本的なビジネスモデルの変革をはじめとしたデジタル投資は引き続き旺盛であります。また、AIに代替される汎用的なITサービスを提供する企業と、AI技術を活用した新たなソリューションを提供する企業との選別が進む可能性が想定されます。

このような状況のもと当社グループは、フューチャーアーキテクト株式会社において、金融機関向けクラウド型基幹系業務システム「次世代バンキングシステム」を、SBI新生銀行に新規導入することが決定したほか、様々な業種の経営改革に関する大規模プロジェクトのグランドデザインが開始し、順調に進捗いたしました。ITコンサルティング&サービス事業の一部グループ会社においては、大型案件の終了や前年同期に計上した一過性の成功報酬売上が剥落した影響があったものの、ビジネスイノベーション事業において、株式会社YOCABI TOの経営改革の成果等により営業損失が縮小したことなどから、当社グループの当第1四半期連結累計期間の売上高は18,262百万円(前年同期比5.4%増)、営業利益は3,433百万円(同3.0%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は、2,357百万円(同18.0%増)となりました。

各セグメントの業績(売上高・営業利益)については以下のとおりです。

① ITコンサルティング&サービス事業

フューチャーアーキテクト株式会社(フューチャー株式会社のテクノロジー部門を含む)では、中長期パートナーシップの構築に向けて、総合商社、飲料メーカー等、様々な業種の経営改革支援に係るグランドデザインの案件が立ち上がっております。また、AIの社会実装が急速に進む中、ソフトウェアの最適化だけでは限界のある処理性能や電力効率の課題に対し、ハードウェアの観点から解決を図るべく、AIアクセラレータ「Mark-I」を独自開発し、技術カンファレンスへの出展をいたしました。

当社の中長期的な成長に資する、知財を活用した案件については、「次世代バンキングシステム」の新規導入行への設計フェーズが順調に進捗しております。これらに加え、政府が主導する医療DXに関連するシステム構築のプロジェクトのほか、小売業、食品卸、金融等様々な業界の経営改革に関する大規模プロジェクトが順調に進捗しております。また、「GlyphFeeds」「FutureApparel」といった知財に係る保守売上も増加いたしました。これらの結果、売上高及び営業利益は、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社リヴァンプは、DX事業において既存顧客からのグローバル展開支援や、グループ基盤構築といった案件の受注が拡大したものの、経営マーケティング事業において前年同期に計上した一過性の成功報酬売上の利益が剥落したことにより、前年同期比で増収減益となりました。

フューチャーインスペース株式会社は、既存顧客からの開発案件の受注が好調で計画どおり推移したものの、大型案件の終了により前年同期比で減収減益となりました。

FutureOne株式会社は、強みであるオリジナルのパッケージソフトウェア「InfiniOne」の販売において、鉄鋼業など業界特化型の営業展開による新規受注の拡大に加え、既存顧客への業務改善提案に伴うシステム開発案件の受注が拡大し、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーアーティザン株式会社は、主要顧客からのPLM及びMESの大型案件の受注によりパートナーシップ強化と付加価値創出を図ると同時に、コストを適切にコントロールしたことで、前年同期比で増収増益となりました。

フューチャーセキュアウェイブ株式会社は、通信機器やセキュリティ関連商材の新規販売を中心に売上が伸長し、セキュリティサービス案件の受注も堅調だったものの、ビジネスモデルの変革に伴う人的資本への投資によるコストの増加により、増収減益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は16,542百万円(前年同期比6.5%増)、営業利益は3,544百万円(同0.4%減)となり、前年同期比で増収となった一方、フューチャーインスペース株式会社の大型案件の終了や、株式会社リヴァンプの一過性の成功報酬売上の剥落の影響から、営業利益は横ばいとなりました。

② ビジネスイノベーション事業

株式会社YOCABITOは、単品管理による販売商材の厳選等により減収となった一方、仕入商品の厳選による粗利率の改善や、固定費削減などにより、営業損失は縮小しました。

東京カレンダー株式会社は、月刊誌の販売及び「東カレデート」等のデジタルサービスが順調に推移したものの、前年同期に大きく上振れた広告収益の反動減の影響や、将来の成長に向けた戦略投資によるコストの増加により、前年同期比で減収減益となりました。

ライブリッツ株式会社は、データ分析システム「FastBall」のプロ野球球団向けの拡張案件や、会員管理・ECパッケージ「FastBiz」のスポーツチーム及びテーマパーク向けの拡張案件が順調に推移したことに加え、システム構築におけるAI活用を推進した結果、前年同期比で増収増益となりました。

株式会社キュリオシティは、腕時計等、複数の海外ラグジュアリーブランドのストアデザインが順調に進捗したほか、高級ホテルやハイエンドレジデンスのインテリアデザインが進捗したことから、前年同期比で増収増益となりました。

この結果、本セグメントの売上高は1,692百万円(前年同期比5.1%減)、営業損失は25百万円(前年同期は営業損失118百万円)となり、前年同期比で減収、営業赤字は縮小となりました。

(注) 上記のセグメントの業績数値は、セグメント間の内部売上高又は振替高を調整前の金額で記載しておりません。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の総資産は94,019百万円となり、前連結会計年度末に比べ3,471百万円減少しました。その主な要因は、配当金及び法人税等の支払による現金及び預金が減少(前連結会計年度末比△4,769百万円)したこと等によるものです。

負債は30,661百万円となり、前連結会計年度末に比べ4,074百万円減少しました。その主な要因は、未払法人税等が減少(同△2,203百万円)したこと等によるものです。

純資産は63,358百万円となり、前連結会計年度末に比べて603百万円増加しました。その主な要因は、利益の積み上げ等により利益剰余金が増加(同+318百万円)したこと等によるものです。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	32,800	28,030
受取手形、売掛金及び契約資産	21,706	21,776
商品及び製品	523	522
仕掛品	21	22
その他	2,343	2,806
貸倒引当金	△24	△24
流動資産合計	57,370	53,132
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,358	3,360
減価償却累計額	△1,578	△1,550
建物及び構築物(純額)	1,779	1,810
土地	0	0
その他	2,554	2,521
減価償却累計額	△1,737	△1,508
その他(純額)	817	1,012
有形固定資産合計	2,598	2,823
無形固定資産		
のれん	10,473	10,235
ソフトウェア	2,619	2,438
顧客関連資産	9,262	9,110
技術関連資産	886	855
その他	17	19
無形固定資産合計	23,259	22,658
投資その他の資産		
投資有価証券	12,544	13,686
敷金及び保証金	1,526	1,523
その他	198	199
貸倒引当金	△5	△5
投資その他の資産合計	14,263	15,404
固定資産合計	40,120	40,886
資産合計	97,491	94,019

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年12月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2026年3月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	1,440	1,323
1年内返済予定の長期借入金	2,856	2,856
未払金	3,442	1,539
未払法人税等	3,550	1,346
賞与引当金	331	1,873
品質保証引当金	35	32
プロジェクト損失引当金	315	173
その他	5,081	4,457
流動負債合計	17,054	13,603
固定負債		
長期借入金	12,143	11,429
資産除去債務	773	773
繰延税金負債	4,669	4,748
その他	94	105
固定負債合計	17,681	17,057
負債合計	34,736	30,661
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,000	4,000
資本剰余金	219	219
利益剰余金	56,038	56,356
自己株式	△2,170	△2,170
株主資本合計	58,087	58,406
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,625	4,907
繰延ヘッジ損益	3	5
為替換算調整勘定	38	39
その他の包括利益累計額合計	4,667	4,952
純資産合計	62,755	63,358
負債純資産合計	97,491	94,019

(2) 四半期連結損益及び包括利益計算書

(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
売上高	17,320	18,262
売上原価	9,203	9,882
売上総利益	8,117	8,379
販売費及び一般管理費		
役員報酬	227	220
給料及び賞与	2,106	2,093
雑給	98	95
地代家賃	331	322
研修費	130	140
研究開発費	366	335
減価償却費	378	293
採用費	212	446
のれん償却額	227	238
その他	702	760
販売費及び一般管理費合計	4,782	4,946
営業利益	3,335	3,433
営業外収益		
受取利息	13	32
有価証券利息	1	1
受取配当金	0	1
持分法による投資利益	42	81
為替差益	—	23
その他	12	4
営業外収益合計	70	145
営業外費用		
支払利息	44	38
投資事業組合運用損	50	22
為替差損	54	—
その他	1	7
営業外費用合計	152	68
経常利益	3,253	3,509
税金等調整前四半期純利益	3,253	3,509
法人税、住民税及び事業税	1,342	1,212
法人税等調整額	△86	△59
法人税等合計	1,256	1,152
四半期純利益	1,997	2,357
(内訳)		
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,997	2,357

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△30	281
繰延ヘッジ損益	△13	2
為替換算調整勘定	△5	0
その他の包括利益合計	△49	285
四半期包括利益	1,948	2,642
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,948	2,642

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	I Tコンサル ティング&サ ービス事業	ビジネスイノ ベーション事 業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	15,517	1,754	17,272	48	17,320	—	17,320
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	18	28	46	117	164	△164	—
計	15,535	1,783	17,319	165	17,484	△164	17,320
セグメント利益 又は損失(△)	3,558	△118	3,439	△65	3,374	△39	3,335

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社(テクノロジー部門を除く)の収益並びに費用の額であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注1)	合計	調整額 (注2)	四半期連結 財務諸表 計上額 (注3)
	I Tコンサル ティング&サ ービス事業	ビジネスイノ ベーション事 業	計				
売上高							
(1) 外部顧客への 売上高	16,538	1,654	18,193	63	18,256	5	18,262
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	3	37	41	237	279	△279	—
計	16,542	1,692	18,234	301	18,536	△273	18,262
セグメント利益 又は損失(△)	3,544	△25	3,519	41	3,561	△127	3,433

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、ハンドボールチームの運営事業、有価証券投資・保有・運用事業等を含んでおります。
 2. セグメント利益又は損失(△)の調整額は、セグメント間取引の消去及び持株会社(テクノロジー部門を除く)の収益並びに費用の額であります。
 3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結財務諸表の営業利益と調整を行っております。

(キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自 2025年1月1日 至 2025年3月31日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2026年1月1日 至 2026年3月31日)
減価償却費	646百万円	583百万円
のれんの償却額	227	238